第78号

# 郵政産業ユニオン TOKYO・NEWS

2019年　2月1日

●発　　行●
郵政産業労働者ユニオン
東京地方本部
発行責任者　　田中　孝史
〒104－0031
中央区京橋3-6-3
京橋通郵便局 5F

# 今年も超過酷な年度末

## 人員不足、今の時期が特にひどい

毎年この時期になると、正社員の計画年休の消化で多くの局は欠区状態で業務が行われています。年末年始繁忙期は長時間・過密労働が行われたことから年明けには正月休みをしたいと思っても、毎日欠区状態で休みもとれない悲惨な実態です。

## 寄せられて職場の声

A「今日もうちの班は夜勤が欠区です。通配が終わったら夜勤をしなければならないから大変です。この状態が3月末まで続くんですよ。非番が買い上げされて出勤することだってありますよ」

B「○さんが希望していた計画年休が飛ばされて今の時期に集中して休んでもらっている。春や夏の時期も欠員できているから、休みがとれない。それが押せ押せとなって、結局こういう事態になっている」

C「毎年この時期になると『計画、計年』と計年をとらせるために欠区状態になっている。計年もいいけども、この時期に集中しないようにできないのか。何でこの会社は同じことが何年もくり返されるのか。不思議な会社だ。おかしい」等の声が寄せられています。

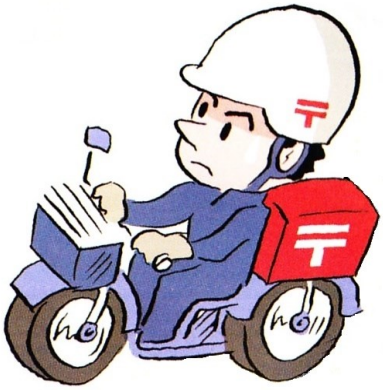
## その場しのぎのやり方はダメだ

こうしたことが起こる原因は人員不足にあります。正社員で自分が希望した日に計画年休が取れずに飛ばされて、この時期に集中してしまっているからです。

もう一つは正社員が祝日に出勤すると代替休暇、もしくは祝日給を選択できますが、経費削減で代替休暇を選択させられるようになっています。その結果、代替え休暇が優先され計画年休は年明けになっているのです。

正社員にとっては自分が希望した日に計画年休がとれないのは問題ですし、非正規社員には計画年休がありませんから、尚更過酷です。正月休みはとれないし、年末始繁忙期以上につらいと言う人もいます。加えて言えば非正規社員の中には年休が取れないために多くの年休を捨てている人もいます。

いずれにせよ人員の補充を早急に行うこと、計画年休は1月から3月に集中しないようにすること、付与した年休は捨てさせないようにすることを郵政産業ユニオンは強く求めておきます。



今、非正規社員の正社員化と均等待遇を求める署名をやっています。ご協力できる人はお願いします。署名用紙は裏面。